

平成29年度 第47回 関東中学バスケットボール大会 派遣報告書

東京都クラブ連盟 島袋 竹志

期間：平成29年8月8日（火） - 10日（木）

会場：小瀬スポーツ公園体育館・緑が丘スポーツ公園体育館（山梨県 甲府市）

スケジュール

8月8日（火）：審判会議・男女1回戦

8月9日（水）：男女2・3回戦

8月10日（木）：男女準決勝・決勝

■審判ミーティング I

テーマ：2017-18 JBA プレイコーリング・ガイドライン

講師：指名審判員 北島 寛臣 氏

7月14日版のガイドラインの資料と映像を用いてミーティングが行われた。

ガイドラインは審判だけではなく、プレイヤー・コーチを含め全体でのルールの共有が1番の目的であり、審判はクリーンでスムーズなゲームを提供する事を心がける必要がある。

1. 悪い手・腕・肘の整理 (HAND-CHECKING 含む)

試合の序盤から整理することによってクリーンなゲームにつながる。

2. スクリーンプレイ

リーガルスクリーンが何かをきちんと理解する。

3. ブロッキング・チャージング

ドライブ等でインパクトが大きい触れ合いで、明らかにオフェンスに責任がない時はディフェンスのファウルである。(プロテクト・シュートにつながる)

4. プロテクト・シューター

オフェンス側を保護する意味合いもあるが、オフェンスがショットをする時に、シリンダーを越えて必要以上に足や手を広げてのディフェンスに触れ合いが起こった場合はオフェンスファウルを判定する必要がある事も頭に入れておく。

5. アンスポーツマンライクファウル

4つのクライテリアきちんと把握して判定しないといけない。時には説明を求められる事がある。

6. プレイヤー/コーチのテクニカル・ファウル

ゲームを尊重する事。テクニカル・ファウルを乱発してはいけない。

7. フェイク (FAKE A FOUL)

プレイヤーの意図を理解して、ゲームに関係する人達を欺くプレイをなくす。

8. トラベリング

明らかなものをきちんと判定する。

9. ファイティング

ファイティングが起こらないために 1-8 のガイドラインがある。

■ 審判会議ミーティング II

テーマ：マンツーマンディフェンス推進 審判の対応

講師：指名審判員 星野 由貴 氏

日本全国において一貫した基準でのマンツーマンディフェンスの推進を行うのが目的であり、違反行為を取り締まる事が目的ではない。

マンツーマンディフェンスの判断は、全てコミッショナーが行う。審判が判断する事はない。審判は試合開始前にコミッショナーとコミュニケーションをとり、位置を確認する。

資料を用いて、審判の運用方表や罰則・確認事項など具体的なケースも含めて認識合わせを行った。

■担当試合

日時：8月8日（火）14：30

カード：女子1回戦 富士学苑（山梨） - 館林三（群馬）

相手審判：（主審）川満 有紀 氏（茨城）

審判主任：岡崎 武史 氏（千葉）

ミーティング内容：

- ゲーム全体としてはハンドチェックを含めてきちんと整理していたので、良くまとまっていた。
- 全てではないが、ブロック・チャージでOFからの仕掛けのケースもあったのではないかな。
- 中学生のゲームは大人のゲームと違って、もっとスペースウォッチを意識して位置取りをとると良い。

日時：8月9日（水）10：50

カード：男子2回戦 山梨南（山梨） - 谷田部東（茨城）

相手審判：（副審）奥原 佑典 氏（神奈川）

審判主任：北島 寛臣 氏（指名）

ミーティング内容：

- 簡単なゲームだったが、簡単なゲームだからこそ何事もなく2人で協力してゲームを終わらせた事は評価できる。
- 次のステップとしてファウルだけど、鳴らさないという選択肢を持っておくと良い。
- 2POではセンターがないので、トレイルとリードそれぞれで頑張って判定するために位置取りをしないといけないケースがある事を理解する。

■グループディスカッション

日時：8月10日（木）10：50

カード：男子準決勝 相生（群馬） - アレセイヤ（神奈川）

審判：R 河野 仁 氏（山梨） U1 岡崎 武史 氏（千葉） U2 手塚 清孝 氏（山梨）

参加者：鈴木 寿之 氏（東京） 神門 康治 氏（栃木） 島袋

審判主任：北島 寛臣 氏（指名）

ミーティング内容：

参加者から、試合の感想、プレイの見解や3POメカニクスについてのそれぞれ自分の意見を述べ、それに対して実際担当した審判達はどのような考え方をもって、オンザコートでゲームを運営していたのかの話し合いがあり、最後に北島氏より話題にあがった内容の解説が述べられた。

特に3POのメカニクスでは、それぞれのプライマリエリアがどこなのかをもっと意識する必

要がある。また、ローテーションではクローズ・ダウンをもっと有効に利用してスムーズなローテーションを行うと良い。等の話があった。

■全体の感想

今回、初めての関東派遣の機会を頂きました。また、違うカテゴリでの大会で全国出場または引退を掛けた戦いに携わることができました。そんな中、カテゴリが違うからと言い訳はきかず、一つ一つの判定をきちんと行う難しさ、1試合通して判定し続けるという大切さを改めて認識しました。

3日間を通して、自分の担当試合だけではなく、他の方の担当試合やグループディスカッションを通して、多くの経験を得る事ができました。この経験を東京都や自連盟の審判員に共有する事とこれからの自分自身のステップアップに確実につなげるようにしていきます。

最後になりますが、今回の派遣にあたり大変お世話になりました開催地の山梨県の皆様、他県審判員の皆様、派遣の機会を頂きました東京都の皆様に感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございました。